

# 取引業者も苦境長期化

## 緊急事態宣言延長 救済措置乏しく

1カ月延長される緊急事態宣言。時短営業が続く飲食店だけでなく、その取引業者も大幅な売り上げ減に苦みます。救済措置も乏しいまま苦境が長期化するおしぼりや食材の業者からは2日、嘆きが漏れました。

「歯を食いしばり耐えるしかない」。首都圏でレンタルおしぼり業などを営む「第一タムリー」（千葉県八千代市）の前島鉄生社長は、延長にうらさを

にじませました。6万円の協力金をもらい休業する納入先も多く、その分売り上げは減っています。工場は稼働を週4日に減らしましたが、それでも定時の2時間以上前に作業が終わります。出荷は4割減で、在庫が積み上がります。

納入業者には40万円の時金が支給される予定ですが、前島社長は「売り上げ5割減が対象だが、半減もしたら会社は終わり。金額

も条件も到底見合っていない」といいま

す。飲食店向けに硬く溶けにくい「純氷」を製造販売する「富士氷室」（東京都渋谷区）

は、1月の売り上げが前年の3分の1に。取引先は、夜8時以降の営業が中心のバーやキヤバクラが大半。納入先の8割は宣言期間中、店を閉めています。

す。

関西の飲食店に冷凍食品を納入する神戸市の企業は、売り上げが4割減。特に感染が拡大した大阪市内向けは半分以下といます。大阪市の食品卸会社の担当者は「一時金は埋め合わせにもならず、工夫して営業しても限界がある。納入業者には目を向けてもらえない」と嘆きました。